

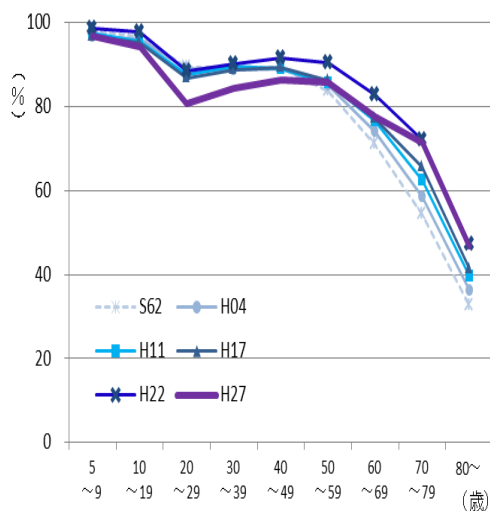
## 若年層で進展する「非移動化」

### ◆外出行動の縮小傾向がみられる若い世代

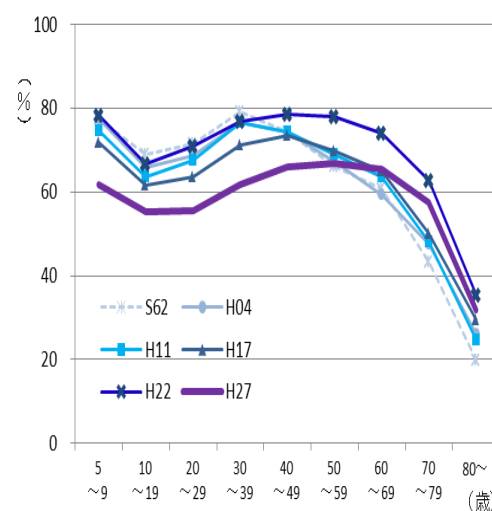
JR東日本は2017年9月に生活者の移動行動の実態を探り「新しい移動」を創発するプロジェクトチームMove Design Lab (MDL) を設立した。MDL設立の背景には生活者の「非移動化」、すなわち、外出行動の減少傾向がある。

国土交通省は1987年から約5年ごとに全国の都市を対象に「全国都市交通特性調査」を実施している。15年の調査では一日1回以上外出する人の割合は平日は約8割、休日は約6割で一日あたりの移動回数は平日2.17回、休日は1.68回と外出率、移動回数ともに調査開始以来最低の値だった。年代別の外出率の比較では平日、休日ともに20代などの若年層の外出率の低下が顕著で特に休日は若い世代ほど外出率が低い（図表1、2）。同省は、外出行動の縮小要因は移動回数が少ない高齢者人口の増加や若年層の外出行動の減少によるものと分析している。

図表1【平日】年代別の外出率



図表2【休日】年代別の外出率



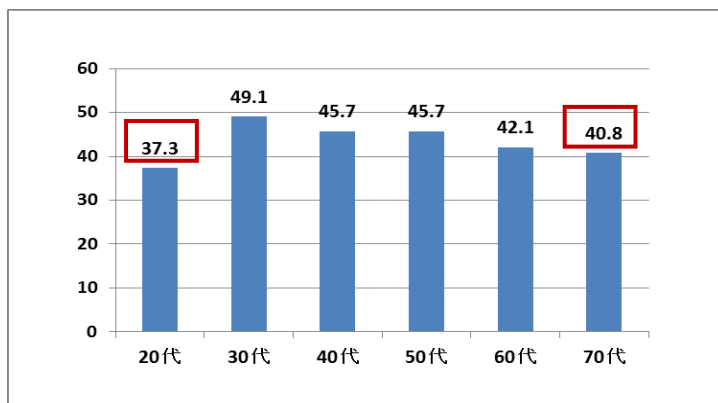
(出所)国土交通省「平成27年度全国都市交通特性調査(速報値)」

### ◆外出頻度が70代より低い20代

MDLが17年9月末に発表した「Move実態調査2017」では、生活者の移動回数やその背景にある生活者の意識調査を実施している。同調査によると1ヵ月あたりの移動回数の平均は43.6回で、1日あたり1.4回と、国交省の調査よりさらに少な

い。また、年代別の比較では20代の移動回数が37.3回と全年代のなかで最も少なく、70代の40.8回を下回っている（図表3）。

図表3 年代別 月の移動回数



（出所）株式会社JR東日本「Move実態調査」

自宅に関する意識調査では「家にいるのが好き」や「外出しないでもいいなら、なるべく家にいたい」と回答した割合は20代が最も高く、次いで30代と若年層の方が「家好き」の傾向がみられる。MDLは若者の「非移動化」の最大の理由はインターネットとスマートフォンの普及によるもので、SNSによるコミュニケーションやネットショッピングなど、実際の移動を必要としない生活スタイルが若者を中心に浸透しつつあると分析している。

#### ◆新たなIT機器の登場で若年層の「非移動化」はさらに進展する可能性も

総務省の情報通信白書によると10年のスマートフォン保有率は9.7%であったが16年には71.8%と飛躍的に伸びている。年代別では20代の保有率が94.2%と最も高く利用時間も10、20代は1日あたり2時間以上と他の年代と比べると突出している。具体的な利用内容では「SNSを見る・書く」、「動画投稿・共有サイトを見る」ということが他の年代と比べて長いことが特徴である。

スマートフォンの普及に続き、日本でもAIスピーカーやVRヘッドマウントディスプレイ（HMD）など、自宅に居ながら使用する新たなIT機器がさらに増えそうだ。それらの活用領域は、今後、単なる娯楽だけではなく、教育・学習、医療、働き方などにも広がっていく可能性がある。若年層を含め「非移動化」の動向を注視する必要があるようだ。

【新井佳美】